

# 全国学生YMCA 130周年記念フォーラム



※2013年「学生YMCA125周年記念フォーラム」には120名を超える参加者が集いました

**2019年1月19日(土) 13:00～18:00**

**会場:在日本韓国YMCA (YMCAアジア青少年センター・東京)**

**主題講演:内田樹氏 (神戸女学院大学名誉教授)**

## 学生YMCAは2018年 発足130年を迎えます

学生YMCAは130年以上にわたり、イエスに生き方を学ぶ青年たちを力づけ、社会に送り出す働きを続け、戦前戦後、学生紛争など歴史のなかで状況が変化するなかでも、「他者と共に生きる希望」を学生・青年たちとわかち合うことを願ってきました。今日では全国の寮・サークルYMCAで450人を超える学生が活動をしており、「全国学生YMCA 夏期ゼミナール」は今年で第46回目を迎え、近年では全国から100人以上の参加者が東山荘に集い、実りある学びと交わりを深めています。

今回、150年間の近代化の歴史とそれを支えた基督教のあり方を根本的に問い、私たちは基督教のなかに相互の連帯を支える原理を見いだすことができるのか、民主主義の根幹が揺るがされる今日の社会状況にあって「霊的であること」「知的であること」「隣人を愛すること」を求める生き方の実践のありようについて、内田樹さんを招き、共に学び、考えたいと願っております。

学生部委員長 竹佐古真希  
フォーラム実行委員長 板野靖雄  
日本YMCA同盟総主事 神崎清一



主催

公益財団法人 日本YMCA同盟

ブランディング推進協力部 学生YMCA (担当: 横山由利亜・鎌仲聖羅・伊藤剛士)

〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町2-11 Tel 03-5367-6640 Email info@ymcajapan.org



# 学生 YMCA 130 周年記念フォーラムに寄せて

——「学 Y という思想」、「学 Y という生き方」を「歴史」の中に位置づける

2013 年に行った学生 YMCA 125 周年記念フォーラムの問いは「3.11 以後をどう生きるのか」であった。東北大震災という自然の災禍、原発震災という文明の災禍に遭遇し、隠されていた近代の闇が露わになった。さらにその後の 5 年間のこの国の政治の惨状は目を覆うばかりであった。このような時代にあって、さらに嘆くべきは、個人の劣化である。精神、知性、心、魂の劣化である。そして宗教と政治の話タブーとしてきた対話・論争なき、言葉の劣化である。

学生 YMCA は 130 年の時を超えて生きてきた。それは不思議なことである。全く小さき弱き association である。教会もない、教義もない。キリスト教徒はいつもごくわずか。伝道を目的とせず、学生は入れ代わり、卒業して各地に散っていくいつも「学 Y とは何か」を問い続けている。

そして集う学生の中で、わずかなメンバーが寮で、サークルで聖書研究を大切にしている。参加者一人一人が、自分の目、精神、心で聖書を読み、「自分の言葉」で語り合う、ただそれだけだ。正解があるわけではない。ときどきそこで発見が生まれるのだ。

けれどここ学生 YMCA で師に、友に、同志に出会えたことが大きい。師は「他者の苦境」に向き合い、その中で聖書一巻を携え、「イエスを生きる」人々であった。聖書を共に読んだ仲間たち、様々なプログラムの中で出会った仲間たち、各地に散っても、いのちのために、平和のために、人権のために働く同志たちであった。人間が人間を支配しない「神の国」を求めて戦う同志たちであった。そのことを信じていることができる、それが学 Y に出会った者の幸いである。

「学 Y を生きると」は、それは「問われて生きる」こと、ただ一人「神の言葉」の前に主体と責任を問われて立つことである。今回、内田樹氏を講師に招き、教会と社会の間に立ち、社会の中に学 Y 魂を持った人がひとりでも派遣されることを求めてきた私たちの思想、生き方を「歴史」の中に位置づけると共に、現代日本における宗教の可能性、青年・学生の育ちにどう関わるのか、真剣に語り合ってみよう。

板野靖雄（鳥取大学 YMCA シニア・YMCA せとうち会員）

## 主題講演 内田樹氏



1950（昭和 25）年、東京生れ。神戸女学院大学名誉教授。東京大学文学部仏文科卒業。東京都立大学大学院人文科学研究科博士課程中退。専門はフランス現代思想、武道論、教育論、映画論など。主著に『ためらいの倫理学』『レヴィナスと愛の現象学』『ぼくの住まい論』『日本の身体』『街場の戦争論』ほか多数。『私家版・ユダヤ文化論』で小林秀雄賞、『日本辺境論』で新書大賞受賞、著作活動全般に対して伊丹十三賞受賞。神戸女学院大学を退任後は、合気道道場を開き武道家としても活躍。近年では、ブログ・ツイッターでの積極的発信が話題を呼び、ジャンルは政治、社会問題、映画論、武道論など多岐に及ぶ。